

## 会 議 録

全部記録 要点記録

<b>1 会議名</b>	第3回 姫路市すこやかセンターのあり方検討懇話会
<b>2 開催日時</b>	令和8年2月13日（金曜日） 15時30分～17時00分
<b>3 開催場所</b>	姫路市役所北別館3階 研修室A
<b>4 出席者又は欠席者名</b>	出席者5名、事務局
<b>5 傍聴の可否及び傍聴人数</b>	傍聴可、傍聴人 6人
<b>6 議題又は案件及び結論等</b>	姫路市すこやかセンターのあり方検討について
<b>7 会議の全部内容又は進行記録</b>	議事要点については別紙参照

事務局	開会（15：30）
事務局	<p>配布資料の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「会議次第」</li> <li>「姫路市すこやかセンターのあり方検討について」</li> <li>「参考資料」</li> <li>「名簿」</li> <li>「配席図」</li> <li>「開催要領」</li> </ul>
事務局	<p>当懇話会については、今回が最終の会議を予定している。これまで2回にわたりあり方検討懇話会を開催し、すこやかセンターに関して、様々な面からご意見をいただいた。本日は、前2回の会議で事務局から十分に説明できていなかった内容について、改めてデータ等を収集し、説明させていただくことと、委員のみなさまからいただいたご意見や、12月に市が実施した公共施設等総合管理計画案のパブリック・コメント手続きの結果を踏まえ、改めてご意見をお聞かせいただきたいと考えている。</p> <p>また、第2回までのご意見を踏まえ、市が今後、進める施策の方向性について、検討案を作成した。こちらについては、検討案の是非を問うものではなく、委員のみなさまそれぞれの専門的な見地から、ご助言をいただければと考えている。</p>
A委員	<p>事務局から話があったように、本懇話会は本日が最後の会議を予定している。</p> <p>それぞれの立場や経験などから、忌憚ない意見をいただくことで、姫路市にとって、より一層の福祉行政の推進につながるよう、委員のみなさまには、お願い申し上げます。</p> <p>それでは、会議次第により進めていきたい。</p> <p>本日の進行は、まず次第2について事務局から説明を受けた後、意見交換を行いたいと考えている。「次第2」の「委員意見のとりまとめについて」事務局から説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p><b>次第2 委員意見のとりまとめについて</b></p> <p><b>資料説明</b></p> <p>資料1 姫路市すこやかセンターのあり方検討について</p> <p>①委員意見のとりまとめについて</p>
A委員	<p>ただいまの事務局からの説明について、委員の皆様から、質問や意見をお願いしたい。</p>

A委員	<p>&lt;補足：障害者の利用状況について&gt;</p> <p>資料5ページの障害者の観点は重要であると感じる。障害の種別等も含めた利用の実態について、もう少し詳しい状況は把握しているのか。</p>
事務局	<p>詳細な数は不明だが、定期券利用者が多い状況は、他の利用者区分と同じである。</p>
事務局	<p>定期券購入者の傾向を調査したが、多くは身体障害者であった。障害の詳細な種別については、施設側では把握していない。</p>
A委員	<p>身体障害者の方が、トレーニングできる場というのは大事であると思うため、気になったところである。</p>
D委員	<p>第1回の懇話会で、私が質問した内容である。人数の増加ということもあるが、全体の利用者の中で、障害者の利用割合が増えているのではないかという趣旨で質問をさせていただいた。障害者の方は、リハビリを兼ねて、長年、継続されていると考えられるが、一方で、16歳から59歳の利用者が大幅に減少していることから、利用割合が増加したともみられる。市では、身体障害者の年齢層は把握しているのか。年齢が高い方については、後遺障害や脳梗塞で半身不随の方などが、利用しているとも考えられる。</p>
事務局	<p>定期券購入者に限っては、多くは60歳以上である。</p>
A委員	<p>高齢者であり、かつ、障害者である方が多いという認識になるかと思う。</p>
D委員	<p>&lt;公共施設等総合管理計画のパブリック・コメントについて&gt;</p> <p>公共施設等総合管理計画のパブリック・コメントの中で、すこやかセンターに関するものが408件あったとのことだが、その中に、こどもの意見はあったのか。</p>
事務局	<p>こどもからの意見はなく、3階を利用する方からの意見もなかった。</p>
A委員	<p>パブリック・コメントの中身について、代表的な意見が挙げられているが、大まかに、このような意見が多かったとの認識でよいか。</p>
事務局	<p>そのとおりである。</p>

B委員	私もパブリック・コメントについてお聞きする。計画全体で 432 件のうち 408 件がすこやかセンターに関するものであり、多くの意見の提出があったとのことである。公共施設等総合管理計画の中で、すこやかセンターに関して、どのような記載だったのか。
事務局	計画案には、「建物の老朽度を踏まえつつ、利用状況や地域におけるニーズ等を総合的に勘案しながら、今後のあり方を検討します。姫路市すこやかセンターのあり方について、現在、有識者を構成員とする姫路市すこやかセンターのあり方検討懇話会の中で、委員からの意見を聴取しております。今後、懇話会は第3回まで開催を予定していますが、各委員からの意見を踏まえて、今年度中に施設の存続・廃止を含めた方向性を決定する方針としています。」と記載している。
B委員	具体的の方針が決まっている訳ではなく、検討中であるとの記載に思える。パブリック・コメントの多くがすこやかセンターに関してだった理由は分かるのか。
事務局	公共施設等総合管理計画については、総論と各論の2部構成となっている。個別の施設については、各論部分において、記載されているが、すこやかセンターは、現在、あり方を検討している最たる施設であるため、センターに対する意見を直接言いたいと考えた方が、多く意見を提出されたことが理由ではないかと考えている。
B委員	昨年末の神戸新聞で、当懇話会に関する記事が掲載されていたと記憶しているが、その辺りも、市民からの関心が高まっている要因であるのか。
事務局	昨年 12 月 31 日の神戸新聞で、本市の公共施設のあり方検討について記事が掲載されており、その一例として、当懇話会の実施に関して、記事にさせていただいた。一定程度の影響があったのではないかと考えている。
D委員	パブリック・コメントを提出された方の属性について、利用者なのか、利用者ではない市民の方なのかなど、状況は分かるのか。
事務局	内容を確認したが、ほとんどが利用者であったのではないかと推測される。
A委員	パブリック・コメントについて、男女比は分かるのか。
事務局	男女比については不明である。全体の 8 割程度が 1 階の利用者、残りの 2 割のうち、多くが 2 階を利用している方であった。

C委員	<p>&lt;施設の採算について&gt;</p> <p>9ページについて、1階部分の歳出超過が続いている点について、1日に何人くらい利用すれば、収支が合うのか。</p>
事務局	<p>人数ベースで試算しておらず、第1回懇話会の資料と同内容の回答となるが、利用者数を変えずに使用料を引き上げた場合の試算としては、おおまかには2倍に引き上げる必要がある。具体的な金額で申し上げると、フルタイムの定期券では、6,600円から、13,750円に引き上げれば、収支が合う。ただし、この試算については、利用者の9割に適用されている1/2減免を適用しない前提としている。実際には、利用者のほとんどが3,300円で利用されていることからすると、4倍以上の負担増となる。</p>
D委員	<p>仮に、すこやかセンターを大規模改修して、継続するとした場合、市としては、使用料を引き上げることを検討せざるを得ないとの認識なのか。</p>
事務局	<p>単純に赤字解消をするということであれば、委員の発言のとおりである。市としては、介護保険制度が始まる中、当時の介護予防の観点から、施設を設置したものであるが、現状の介護予防の考え方は、地域包括ケアシステムを更に深化させていく方向である。すこやかセンターという、1つの拠点で活動することが、介護予防に繋がるというデータがあればよいが、実際は利用者が限られた方であることから、単に使用料を引き上げ、継続すること自体がどうなのかということを検討する必要があるのではないかと考えている。</p>
E委員	<p>&lt;利用者の思い及び子育て支援と高齢者の通いの場とリンクについて&gt;</p> <p>2点お聞きしたい。1つはパブリック・コメントについてであるが、利用者に寄り添って考えると、施設の老朽化等による見直しということを知ると、当然ながら不安を感じる。8ページの資料をみると、子育て支援については、行きやすい、動きやすいなど、いろいろな施設が受け皿となることが分かるが、1、2階の利用者については、自分が通っていた場所がなくなるかも、継続・存続どちらになるのか不安である、そういった気持ちから、多くの利用者が、今回、パブリック・コメントを提出されたことが伺える。10ページの表中、2階老人福祉センターに関して、「新たな老人クラブ会員が、新たな担い手となれば理想的である」とあるが、具体的に、地域の方が喜び、地域が活性化する施策を、市が示すことができれば、利用者にも、安心感を持っていただけたらと思うが、市の見解を教えてください。</p> <p>また、9ページの表中、3階子育て支援施設に関して、委員から、「多世代間交流を促進する観点から、高齢者の通いの場とリンクさせてはどうか」とあるが、これについて、取組事例や市の見解があれば、教えてください。</p>

事務局	<p>後ほど、説明させていただく予定としているが、すこやかセンター1か所で集中して取り組むということには限界があると考えている。具体的には、高齢者の人口が増加する中、老人クラブ会員数が減少し続けているなど、効果が十分に出ていない。市としては、老人福祉センターが機能していたのかということから、デジタルディバイド対策をはじめとする既存の様々な取組と、地域での活動を融合しながら、既存の公共施設等を活用して地域展開をできないかと考えている。</p> <p>また、具体的な事業について検討するにあたっては、行政だけではなく、老人クラブをはじめとする地域の方々の意見や、常日頃から、地域の高齢者の方々の相談や課題をお聞きしている地域包括支援センターの職員の声を聴きながら、よりよい施策に繋げていきたいと考えている。</p>
事務局	<p>子育ての拠点施設については、高齢者の方々が利用する施設とはなっていないが、高齢者の方が子育て世代の相談相手となっていたり、昔遊びを教えていただいたりすることで、交流をしていただくことはできるのではないかと考えている。</p> <p>また、高齢者の方々が集う場に、子育て世代の方々が参加し、交流をしていただくこともできると思う。地域の身近な場での活動であれば、社会福祉協議会の取組みが当てはまるのかもしれない。</p>
D委員	<p>社会福祉協議会は、地域福祉を推進する立場であり、住民の方同士が、地域の困りごとを地域で解決するという趣旨から、様々なボランティア活動の一環として活動していただいている。多世代間の交流の事例として、高齢者と小学生と一緒に田植えをする、あるいは、高齢者とこどもと一緒に昔遊びするなど、そのような機会を、各エリアで自主的に行っている地域もみられる。また、子育て支援事業では地域の子育ての先輩である高齢者の方が、地域の子育て世代の方々に催し物を行ったりする事例もある。これらに限らず、地域では年齢を問わず、多世代が触れあえる様々な取組をされており、このような活動が、今後、姫路市が取り組む総合事業の一つのチャンネルとなるのではないかと考えている。</p> <p>すこやかセンターに通われている方の中には、積極的な方もおられると思うので、自分に合った、身近な場所で、自分にあったチャンネルを探して、活動できるような場は、地域には多くあると考えられる。そのチャンネル探しの部分に、行政として主体的に関わることや、支援や補助などを通じて、働きかけていくことで、ネットワークを作ることが大事かと思う。仮に、すこやかセンターを廃止とする場合には、利用者の方が、ひきこもりや孤独・孤立の状態とならないよう、十分な情報提供をしてあげてほしいと思う。</p>

A委員	<p>当事者の立場からすると、施設を存続してほしいとの気持ちが大いとは思。一方で、施設のあり方検討という点から考えると、利用者、特に代表的な一つとして老人クラブが挙げられるが、これらの方々から、将来の市の施策に向けた提案をしていただければ、よい意見交換に繋がる。キーワードとしては、第2回の懇話会で市から提案のあった「通いの場」があるのだと思う。</p> <p>通いの場では、姫路市は、コンパクトシティの中で、都市部と郊外が繋がりがやすい点から、農業や食と絡める、あるいは、高齢者の知恵や知識を活かしたような、魅力的で、姫路ならではの場を作ることができれば、地域にも広がっていくのではないかと思う。</p> <p>それでは、時間も来ているので、次第3に移りたい。</p>
事務局	<p><b>次第3 市の施策の方向性（検討案）について</b></p> <p><b>資料説明</b></p> <p><b>資料1 姫路市すこやかセンターのあり方検討について</b></p> <p><b>②市の施策の方向性（検討案）について</b></p>
事務局	<p>本日、欠席の委員から、市で事前に意見聴取したため、代わって説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 費用対効果を考えると、ハードから機能・サービスへの転換が望ましい。その意味でも、地域の通いの場に施策を転換していくことが望ましいと考える。</li> <li>・ 通いの場は、地域住民主体での活動とすることが望ましく、行政はそれを支援していく。住民主体の活動としていくことで、活動が長続きする。</li> <li>・ 地域住民の方々、あるいは老人クラブの方々、それぞれの校区に合った形の一律でない通いの場が展開されていくと、面白い施策になるのではないかと思う。</li> <li>・ いわゆるプロポーザルではないが、地域から提案があった事業に対して補助をする、住民主体以外に、民間施設の活用の一例として、ある社会福祉法人が、月に1回、特産物展のようなものを開催し、住民からの評判が良く、地域の集まる場となっている。</li> </ul> <p>といったご意見等をいただいた。</p>
A委員	<p>今、説明のあった市の施策の方向性案については、会議のはじめに、事務局からも説明があったように、内容の是非を問うのではなく、委員それぞれの専門的な見地から、助言をいただくような方向で進めたいと思う。</p> <p>先ほど、事務局から本日欠席の委員の意見を披露してもらったが、その中にあった「住民主体」というのは、重要なキーワードになるのではないかと感じた。住民自身が、様々な興味や目的に合う選択肢の中から選び、市は住民がサービスを選択できるよう側面支援していくことで、最終的にはそれが介護予防に繋がる。</p> <p>一方で、多くの選択肢としてのサービスというのは、ある種の多様性となるが、</p>

	<p>私自身の印象では、多様性というものは、脆弱な部分があると感じている。試行錯誤を繰り返しながらも、しっかりとした理念や理想を持ち、住民の方々や老人クラブの方々とは意見交換をしながら、進めていくのがよいと思う。</p> <p>私は、市の施策の全体的な方向性については、あまり異論がないが、一点、姫路ならではの、姫路モデルとなるような通いの場を目指していくのが望ましいと感じる。第2回の懇話会で、市から説明があったように、姫路市は老人クラブの組織率が非常に高いという特徴があるため、高齢者主体、住民主体の提案に繋がればよいのではないかと。</p>
E委員	<p>積極的に地域活動をされている住民の方にとっては、活動に対して、行政のサポートが、どれくらい充実しているのかが分かると、提案もしていただきやすいのではないかと思います。事務局からの説明の中で、高齢者の活動に対してポイントを付与する事業を実施していると伺った。今、高齢者の方でもスマホやパソコンを日常的に活用する方も多く、いわゆるポイント制のような形で、ポイント自体を溜めることが楽しみとなっているとか、貯まったポイントで何かができるとか、それが外出に繋がるとか、具体的なイメージが持ちやすいと思う。</p> <p>行政への提案や、それぞれの活動について、自由にどうぞということでは、提案やどのような活動をしたいかという意見も出にくいとは思っているので、いくつかのパターンを市が示して挙げると、意見も出やすいのではないかと。</p>
D委員	<p>すこやかセンターが開業した平成14年というのは、まだ、「地域」という意識が一般に広まっていなかった時代で、その時期に、一つの場で多世代間の交流というコンセプトを打ち上げたというのは、当時、非常に斬新な発想であったと思う。</p> <p>地域での高齢者の孤独・孤立については、地域の支援で防止できていたものが、介護保険制度が始まり、公的サービスとなったことで、支援者側としては、責任が、少し軽くなったという部分もあるが、一方で、それ以後十数年の中で、地域のつながりが弱体化したということも間違いないのではないかと。</p> <p>姫路市社会福祉協議会の事業の中に、ふれあいサロン事業というものがある。これは、地域の方主体で、公民館でお茶や菓子パンなどを用意し、交流の場を提供するものである。第1回の懇話会で、「身近に通える距離というのは250mである」との話もあったが、ふれあいサロンを楽しみに、身近に通える・通おうという場が、どんどん広がり、今は姫路市内に二百数か所存在する。この事業は、平成18年に合併した旧町で実施されていた事業を、姫路市が引き継ぐような形で実施しており、いわゆる北部の郊外の地域で、サロンという形で地域での繋がりを非常に大切なものと感じて継続されてきたものが、平成18年以降に、好評を得て、一気に姫路市内二百数か所に広がっている。</p> <p>また、市が進めるいきいき百歳体操についても、10年強の間に四百数十か所に拡大しており、これらの活動には、自主的なボランティアが活躍されている。</p>

	<p>今は、このような地域のリソースが非常に見直しをされてきている時代であり、また、活動に協力を惜しまない方々も多くなってきている。姫路市では、顔と顔が見える関係が、近くに存在していることは、これらの事業でも実証されているので、住民主体、地域主体の施策というのは、壮大で大きな理想とはなるが、今後の地域にとって、必要な施策になるのではないかと感じる。</p> <p>一方で、今後、継続的に地域の担い手を確保できるのかという部分が、悩みどころであり、地域の力を借り、地域の資源を活かすことが、いつまでも続けられる体制づくりは、情報発信も含め、行政の施策ではないかと感じる。</p> <p>すこやかセンターという当時、斬新な発想だった部分が、地域での拠点に代わっていくということであれば、よい事業にできるのではないかと思う。</p>
A委員	<p>先ほどの委員の意見を聴くと、私の理解では、姫路市は50万人都市である中、顔の見える地域活動がかなり浸透しているという認識で捉えているが、これは、ある意味、姫路らしさになるのではないか。</p> <p>住民同士の顔の見える関係、そういった交流というのは、一つ大きな力になると思うので、今後の市の施策については、単にマスで考えるのではなく、個人個人の顔の見える関係を、活かしていただければと思う。</p> <p>以前に、ある町の高齢者の住まいの調査をした時に、市町村合併で地域住民同士の顔が見えなくなってしまうのではないかと心配されていた方もあったが、そうではなく、今でも、関係が引き継がれているというのは、強みであると感じる。</p>
C委員	<p>地域の中で活性化していくという方向は、大事であると思う。</p> <p>老人クラブの活性化について、役員の方には任期があると思うが、私自身が聞いた話では、任期の終わりが近付くと、「次の方にこんなことはさせられない」と消極的になられることもあるので、重層的にサポートして、人を育てていかないといけないと思う。</p> <p>老人クラブだけではなく、民生委員が地域で果たす役割も大きいと思うが、一方で、負担も大きい中、地域の拠点の担い手としての役割を期待すると、活性化している地域と、そうでない地域が生まれてしまう。そうならないよう、行政のサポートが必要だと思うが、行政側がここまではサポートする、ここからは、地域でも頑張ってもらいたいという部分が見えてくると、地域の方たちも安心して、各地域の拠点づくりに取り組めるのではないかと感じる。</p> <p>また、地域の担い手のリーダーをどのように育成するかであるが、地域で人を繋いでいくような、形の見えない仕事は、かなり負担もあると思うが、それを形にする意味でインセンティブというのは面白いのではないかと思う。活動する方、参加する方、それぞれにポイント制でポイントを付与して、「じゃあ、そのポイントはどのようなものか」と楽しく見える化していくと、より豊かな地域づくりができていくのではないか。</p>

D委員	<p>地域の拠点を活性化するためには、老人クラブが一つの大きな役割を果たすこととなるが、その統括である老人クラブ事務局については、その機能がしっかりと果たせるような場所の検討が必要だと思う。</p> <p>現在は、老人福祉センター1か所が拠点であるが、地域の活動の場にもっと拠点があれば、非常に効率的で、社協とも協働して頂くことで、地域で面白い、楽しい企画ができるのではないかと思いますので、市で検討していただきたい。</p>
B委員	<p>各委員のお話を伺っていると、健康づくりや高齢者施策、子育て支援等の各事業については、工夫や人の力で何とかでき、代替できる場所も市が調整すれば、できるのではないかと思います。</p> <p>現実的な話に戻し、すこやかセンターという施設自体に対する評価だが、利用者の方からすると、なくなると困るという話かもしれない。一方で、この施設に関わっていない、利用していない方からみると、開設後、一度も黒字になっていない厳しい状況の中、本当に施設がないといけないのかという話になってくる。</p> <p>特に、健康づくり施設について、一部の固定客の方が、多く利用している、そのこと自体にも意義はあるのかもしれないが、費用と効果を天秤にかけると、現状のまま継続して、大丈夫なのかという部分があると思う。先ほど、改修費用等と見合った利用料金とすると、13,750円まで引き上げる必要があると説明があったが、これには、民間でいう設備投資や、減価償却ということを考慮せず、資金の収支だけなのではないか。</p>
事務局	<p>そうである。</p>
B委員	<p>そうであれば、設備投資も含めると、本来はさらに歳出超過となるのではないかと。公共の役割として、単に赤字・黒字という部分だけで考えていいのかということもあるが、日本も人口減少をはじめ衰退している中、今後、行政としては、劣化が進んでいく、もっとベーシックなインフラの維持管理を優先していかなければいけないのではないかと。そういった面から、私は、市が「施設を維持し続ける必然性に乏しい」という判断をしたことは、妥当なものではないかと思う。</p>
D委員	<p>委員の発言のとおり、採算という面からは、なかなか厳しい状況の施設である。一方で、利用者の方にとっては、自分に一番合った居場所であるため、仮に、居場所を奪うこととなる場合は、フォローに十分時間を取ってあげてほしいと思う。</p> <p>地域でなかなか自分に合うチャンネルがない方もいらっしゃるかもしれないが、そのフォローとして住民主体の中で声かけをしたり、あるいは、ふれあいサロンに参加して、一緒にお茶を飲んだり、また、体を鍛えるという部分においては、いきいき百歳体操への参加も働きかけることで、ひよっとすれば今後、地域活動の担い</p>

<p>A委員</p> <p>事務局</p> <p>事務局</p>	<p>手、リーダーとなって頂ける方もいらっしゃるかもしれない。</p> <p>現在利用されている方のこれからの居場所という部分が気になっているが、できるだけ市が時間を割いて、丁寧に情報提供をしてあげてほしいと考えている。</p> <p>他に意見はないか。他に意見もないようなので、これで、本日の議事は終了する。</p> <p>委員の皆様には長時間にわたり意見をいただき、誠にありがとうございました。</p> <p><b>事務局挨拶</b></p> <p><b>閉会（17：00）</b></p>
----------------------------------	---